



しののめだより

令和4年度第21号
令和5年2月14日発行
富士東高校情報交換ひろば

外を見る、外に出る、外とつながる ～東高生の挑戦～

立春を過ぎ、春の兆しが見え隠れするようになりました。暖かな陽気に誘われて梅の花があちこちでニッコリし始めましたね。3年生はいよいよ全国に出陣。職員室では3年部職員が固唾をのんで朗報を待っています。1、2年生も、それぞれ次の学年への自覚が芽生え、いわゆる0学期といわれるこの時期を大切に過ごしている様子うかがえます。さて今年度は、「自立したキャリアプランナーの育成」を目指して、探究学習を含め、積極的な外部連携を奨励してきました。今回は第14号に続き、**外部イベント等に参加した2年生9人の素晴らしい取組**を御紹介します。

青春メッセージ大会 ～Beyond Today今を超える～ (主催：富士市) 1月29日(日)ラ・ホール富士



【目的】 コロナ禍にあっても負けずに頑張っている高校生の姿を広く発信することにより、まち全体で高校生を応援する。そして多くの皆さんに元気を与え、少しでも前向きな気持ちにもらえるように！
【内容】 高校の部は、市内高校6校（富士市立、富士、**富士東**、吉原、吉原工業、富士見）の頑張る生徒及び学校紹介動画を放映、各校の卒業生＆富士市長から講演

全校生徒の思い出をつくる

当日は、自治会長として私が抱えている思いや、日々の活動について発表しました。「これからの目標」も漢字一字で表し、私は「笑」という文字にしました。これからも笑顔で活動し、



東雲祭では生徒・先生・来場者の方々に笑顔になってもらいたいのでこの漢字にしました。

このイベントへの参加は、他の高校の生徒さんの活動や思いを知る良い機会となり、たくさんの刺激を受けることができました。また、自分の今までの活動やこれからについて考えるきっかけになりました。

東雲祭まで残り4ヶ月を切りました。私が富士東高校の自治会長として活動できる日数も少なくなってきました。より良い東雲祭となるよう精一杯考え、全力で準備を進めていきたいと思えます。そして、東雲祭を成功させたいです。
(自治会長/N.T.さん)

ライバルに勝ちたい

小学校の持久走大会で負けてから始めた陸上で、最初はその子に勝つことがきっかけでしたが、いろいろな人に支えられて県大会や東海大会などで活躍できるようになりました。

これまであまり自分について振り返ることがありませんでしたが、今回メッセージ大会に参加してもらい、インタビューを受け小学生から今までの事を振り返ることができたので嬉しかったです。

今後は今年のインターハイの全国でしっかり結果を残せるように、あと短い期間を大切に、練習を頑張っていきたいです。
(陸上競技部部長/S.U.さん)

高校生サミット (主催：NPO法人しずおか共育ねっと・後援：静岡県教育委員会) 2月5日(日)オンライン開催

【目的】 静岡県内で地域貢献や社会貢献など、地域と共に実践を積み重ねている高校生の活動発表を通して情報交換＆交流を行う。

【テーマ】 今日「わたし」は一步踏み出す

【参加】 24団体（望月さんは「TOBUK06」メンバーとして参加／「TOBUK06」とは、静岡県教育委員会主催「ドリームプロジェクト2022」東部チームとして活動する5校6人のグループ名です。）



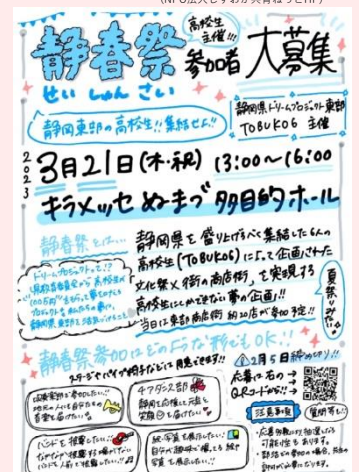
静岡県大好き6人組が静岡をもっと元気に！

「TOBUK06」は「静春祭」というイベントを企画しています。静春祭とは、高校生×商店街というテーマのイベントです。開催するにあたり、多くの高等学校及び企業には御協力いただきました。現在、参加予定高校は桐陽高校、加藤学園高校の文化部など合計10校ほどです。また企業においては、意外にも知られていない東部地域の商店街や、皆さんが知っている企業が参加予定となっています。

私やチームの仲間の周囲に耳を傾けると、比較的静岡に対してマイナスの意見が多いと感じていました。ですが静岡は美しい富士山や多様な物産品で魅力に溢れています。その上、静岡に住んでいても知られていない魅力があることが分かりました。そこで静岡の良さに改めて気づいてもらえるような企画を作ろうと決意しました。しかし、静岡の魅力を伝える活動はすでに行われていますし、お店を招くだけなら大人の方がやってください。そのため、高校生らしさや高校生だからこぞできる内容を考え、何度も企画を練り直しました。その結果、私たちの伝えたい魅力溢れている商店街と高校生らしさを象徴するといっても過言ではない文化祭を掛け合わせた「静春祭」をつくることにしました。

「高校生サミット」では、前半の部で私たちの活動状況を説明し、後半の部で「高校生がしたいことができる町とは」という問いについてディスカッションしました。意識のことから具体的なことまで、同じ立場の高校生からの意見はよい刺激となりました。

3月21日(火・祝)キラメッセぬまづで開催する静春祭に是非足を運んでみてください！
(TOBUK06メンバー/A.M.さん)



- 【目的】** 自治体や企業からの地域課題に取り組んだ県内大学のゼミや研究室、大学教員の地域研究、高校生の取組を発表し、様々な年代、ジャンルの発表や意見を聞いて新たな交流が始まることを期待する。
- 【内容】** ゼミ学生等地域貢献推進事業の成果発表(32件)・共同研究助成事業の中間発表(6件)・高校生の発表(5件/うち富士東高校2件)



《施設活用・まちづくり》部門「LGBTQ+の理解・浸透に向けた取り組み」

LGBTQ+の現状と問題点、既存の取り組みを調べた上で、富士市のLGBTQ成人式において当事者を含めた18人の方々からアンケートを行い、マイノリティ側が本当に求めていることについて調査しました。これを基に、考えられる解決策を提案しました。

もともとLGBTQ+について関心があり、以前新聞部の取材でお世話になった方と個人的に連絡をとって、フィールドワークに行っていました。そこでは漠然としたのめ探究に役立てられればいいかな、と思っていたんですが、F先生に外部発表をやってみないか、とお声がけいただいて、校内だけでなく校外での発表の経験をしたと思いました。そこで、私と同じくLGBTQ+に関して詳しく探究していたH.U.さんを誘って、今回ふじのくに地域・大学フォーラムに参加することとなりました。前3班が大学生のゼミや研究室の学生さんたちの発表だったので、その後の発表は緊張して噛んでしまった部分もありましたが、やりきることができてよかったです。コメントーターの先生や、大学生の方々にも発表や、探究内容を褒めていただいてとても嬉しく思いました。また、大学生が実際ゼミや研究室でどんなことを学んでいるのか知る良い機会となりましたし、高い志をもって探究に取り組んでいる大学生の皆さんに混じって発表できたのは、高校生として貴重な体験だったと思います。学びの多い1日となりました。(M.A.さん)

M.A.さんが誘ってくれて、興味があったので参加を決めました。大学生の方も教授も温かく聞いてくださり、質問してくださったので、思ったより緊張せず、練習してきた通りに落ち着いて進められたと思います。熱心に感想を伝えてくださった方もいて、参加してよかったなと思いました。(H.U.さん)



大学教授からの講評
高校ではトレーニングがまだ十分でない中で、しっかりした研究ができています。このような問題については、大人も学ばないといけない。それには実感を持った理解が必要で、そこに提案の有効性がありますね。

大学生等からの質問・感想
●このテーマに関心をもったのはなぜ？ 当たり前が当たり前ではない世の中で、おかしいことをおかしいと言えるあなたが素晴らしい！
●富士市に住んでいるが、LGBTQ成人式については認識していなかった。提案内容を実現するには費用がかかるが、その点について調べていますか？ (☞即座にしっかり回答していました)

《地域資源活用》部門 「脱プラスチックを通じた富士市の活性化」

大学教授からの講評
こういった問題はなんとなく頭にはあるけれども、実はけっこう深刻なんだという根拠がしっかり提示され、頭の中が整理できました。正しくしっかり認識する機会の提供は大事です。簡単なことでも、具体的な一歩が提示されれば解決に向けて動き出せるでしょう。

大学生等からの感想
●身の回りにありすぎてなかなか意識できないこと。問題を突き詰めて調査し、意識をもって物事を見つめているところがすごいと思う！
●働きかけることが大切。高校生ならではの柔らかい頭で、例えばSNSを使った発信など、学校の先生が言うよりも身近なところで考えていくといいと思う。

具体的な根拠をもって、プラスチック問題の現状と原因、また富士市の現状とのつながりを企業と行政の両面から説明し、そこから私達が考える対策方法と、富士市への還元を考えました。

あまり人前で話す経験がなかったのでとても良い経験ができました。一番緊張したのは控室で番を待つ間、そして発表する前の時間でした。しかしこれまでの時間で仲良くなった仲間がいたので発表は大きなミスもせず、成功できてよかったです。大学のゼミの発表もとても具体的で積極的に外部との関わりを持とうという気持ちが伝わってきました。解決法の提案もただけてよかったです。(A.O.さん)

先生からの紹介で興味を持ったので参加しました。緊張はしましたが、無事発表ができて良かったです。大学生の発表を見て、大学は疑問に思ったことを時間をかけてとことん追求していくのだなと実感し、私達との探究の成果との違いを感じました。総じて良い経験になりました。(Y.K.さん)(D.K.さん)



第17回科学地理オリンピック日本選手権 兼 第19回国際地理オリンピック選抜大会

- 【内容】** 暗記力ではなく、「地理力」を競うオリンピック。第3次選抜で選抜された4人の日本代表は、8月にインドネシアで開催予定の国際地理オリンピックへ派遣される。
- 【日程】** 第1次選抜12/10(土)、第2次選抜2/19(日)、第3次選抜3/11(土),12(日)
- 【経過】** 第1次選抜試験応募者総数 1,231人 受験人数 1,030人 → 第1次選抜試験の通過者128人



独学で、「好き」を極める

もともと地理が好きで高校で地理を学びたいと思っていたのですが、文系の生徒は地理を履修することができないと知って、F先生に相談したところ地理のI先生を紹介していただき、話したところ地理オリンピックを勧められたので受けることにしました。I先生は地理オリンピックの採点や国際大会の牽引などをしたことがあり、非常に詳しく教えてくれてすごく面白そうであったからです。地理オリンピック以外にも地理の勉強などについてアドバイスをくださってとてもありがたかったです。昨年も受験したのですが、その際は2次試験に行くことができませんでした。今年諦めずに受験して進むことが出来てよかったと思いました。全力で楽しんで受けたいと思います。(H.B.さん(第1次選抜通過))

1次試験はマーク、2次試験は記述、3次試験はフィールドワークです。私がこれから受けるのは2次試験なので、国立大学の過去問などを解いて勉強しています。